

# 移住定住促進団地による 持続可能な町づくりは

町長

空き家の利活用事業などと  
連動させ取り組む

**問** 昨年6月議会の「分散から寄り添い助け合い生活できるコンパクトな町の実現」で町長は「将来的に集約するエリアが形成されれば、誘導という形で時間をかけ集約化を推進していくこともあり得る」と答弁している。北海道の上

川町では「上川町移住・定住促進団地宅地分譲」によって、人口の維持、増加を図っています。これは「集約するエリアの形成」です。本町も「南会津町移住定住促進団地（仮称）」により人口維持増加の施策を進めるべきでは。



さとし 湯田 議員



一般質問 YouTube



人口約3000人が住む北海道の上川町、町道に隣接する住宅

**答** 現時点において、その事業化は考えていませんが、増加する空き家の利活用など様々な事業を連動させて、人口減少対策に取り組んでいく考えです。

**問**

最新AIの普及により学校、先生の役割も大きく変化しています。社会の人々と触れることは、子供たちの可能性が開花する、可能性を発見する機会になると考え

**答**

地域の産業や施設を見学し講話や実習も行っています。様々な職業の方の言葉に耳を傾ける経験は、自らの将来や生き方を深く考える重要な機会だと認識しています。

## 子供の可能性が開花する 学校の実現は

**教育長** 好奇心を刺激する魅力ある  
授業づくりを進めていく

**問**

「学問にはこんな面白いものもあるんだ」など、先生自らの考えで子供たちへ伝えるような、独自の授業をしていますか。

**答**

先生個人の判断での授業は、学校間・学校間の公平性の観点から困難です。今後学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、先生方がそれぞれの持ち味や経験を教育活動の中で発揮し、子どもたちの好奇心を刺激するような魅力ある授業づくりを進めていきます。